

『就実論叢』第44号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2015年2月28日 発行

# 縫製技術の向上とボランティア活動の試み

**Improvement in Sewing Technology and the Trial of a Volunteer Activity**

菊 永 典 子

# 縫製技術の向上とボランティア活動の試み

Improvement in Sewing Technology and the Trial of a Volunteer Activity

菊 永 典 子

## 1. はじめに

被服実習指導において、最近の学生はミシンを使うのは小学校以来で久しぶりというケースが多く、今までの縫製経験<sup>1)</sup> といえ、エプロン、ナップサック、ハーフパンツ、ティッシュカバー程度で、被服製作の知識・技術が非常に未熟な学生が多い。

しかし、被服実習担当者としては、被服製作の伝承を途絶えさせてはならないと、学生には難しすぎるブラウス、スカート製作を頑張らせてはいるが、なんとか縫うことに慣れ、より魅力を感じてもらえるように、被服実習指導の充実・発展のための教材研究<sup>2)</sup> をしている。ここ数年、被服実習の中にタオル帽の製作を副教材として組み入れてみたところ、比較的簡単できれいに製作でき、達成感も得られ自信にもつながるようで、おじいちゃん、おばあちゃんにあげるとか、施設に届けたいなどの感想を多く得ていた。そこで、このタオル帽子を製作して病院に届けるボランティア活動に踏み切る試みをした。

学生には、副教材として1作品を製作した上で、ボランティアに参加できる学生を募る方法をとった。今回のボランティア参加学生は3人と少なかったが、病院へ届ける活動は初めての試みなので合計60個を製作して、ガン診療拠点病院である3病院に届けることにした。病院によって受け入れ態勢は異なっていたが、今後のボランティア活動の実践に期待が持てそうであったので、その活動報告をする。

## 2. 製作方法とポイント

前報<sup>3)</sup> で紹介した(例1) 岩手ホスピスの会のタオル帽子はすべて手縫いで心のこもった帽子であるが、これは学生には多少不向きなようであったので、(例2) 試作タオル帽子を副教材として製作することにした。

このタオル帽子を作るにあたって、タオルは一般的にタオルの縁、耳が硬いので、患者さんの頭に優しく、肌触り良く、刺激が少ないようにと、耳を全部ロックミシンでカットする作業を入れた。縫製にはダーツをたくさん入れてきれいな立体になることの理解やミシンの熟練を望んでいる。ボンボン手縫いで、円形の布を用意して周囲にぐし縫いをし、残りタオルを綿代わりとして細かく切って使用し、すべてタオル1枚での帽子完成とする。

以上、製作工程には手縫い、ミシン縫い、ロックミシン縫いと被服製作の基本がすべて含まれていて、縫製技術の向上には最適の副教材と思われる。

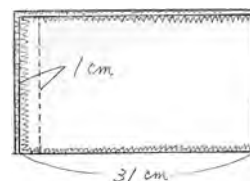
用意するタオル 33cm×70~80cmぐらいのもの（頭囲 約58cmとする）

- ① タオルの端は硬かったり、耳がつれていたりするので周囲をすべてロックミシンでカットして62cmの長さとする。（柔らかい仕上げとなる。）

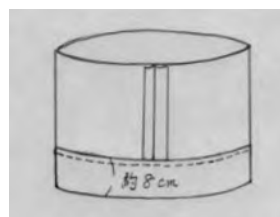
残り布は直径10cm程度の円形布が裁断できれば、ポンポンを作る。はぎ合わせてもよいが、タオルサイズにもよる。



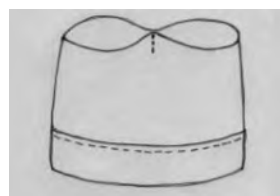
- ② 筒状になるようにミシン縫いをする。



- ③ 裾を8cm折りあげミシン縫いをする。被った時に折り返しができるのでサイズ調整にもなるので少し幅広にしてある。



- ④ 筒の中央を上端1cm程ミシンで縫いとめる。2つの輪ができる。



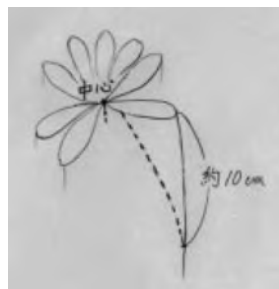
- ⑤ それぞれの輪をさらに半分にして4つの輪ができるようにする。分厚くなるので手縫いで縫いとめる。



- ⑥ さらに半分にして計8等分の輪を作る。相對する位置を同時に縫いとめること。



- ⑦ それぞれの輪をつまんで、長さ約10cmのダーツを合計8本縫う。ダーツは曲線で縫うときれいな形の帽子となる。



- ⑧ 表に返して出来上がり。



- ⑨ ボンボンを作る。直径約10cmの円形布の周囲をぐし縫いして縫い縮める。その中にはタオルの残り布を細かく切り、綿代わりとして入れる。



学生に向くように試作したタオル帽子は以上の工程で製作した。

### 3. 学生の挑戦

学生が特に難しかったと言ったのは、頭頂部分の8等分が揃わなかったこと、中心が一点にまとまらなかったこと、ダーツが綺麗なカーブに縫えなかったことなどであった。タオルは厚地なので扱いにくく、特にタオル地のループがミシンの針先や送り歯に引っ掛かって布を傷つけるおそれがあるので、送り歯の位置にも気をつけなければならない。もう一点は失敗してほくことが他の布に比べて非常に困難で、縫い直しができない難しさもある。

不安ながらも頑張って作ってみた体験談の一部を紹介する。

- ・タオル1枚で帽子が作れて感動した。その上すごく簡単にできるし、ボランティアとして、私もガン患者さんに作ってあげたい。
- ・ダーツは1つ1つ縫うのが面倒だったけど、完成すると丸い形になるのでやったかいが

あった。かわいいタオルで作ると可愛いのができそう。

- ・ロックミシンやミシン縫いなどの裁縫の基本ができる帽子だったので、やってみてよかった。
- ・いろいろな柄のタオルを使えばバリエーションも増えるし、医療現場などで患者さんを元気づけられると思った。
- ・タオル帽子は思ったより簡単だった。これなら家でもすぐに作れるから楽しいと思った。子供用の帽子も作ってみたい。

#### 4. 岩手ホスピスの会の活動状況<sup>4)</sup>

2002年に岩手ホスピスの会は吉島美樹子さんを中心に発足された。吉島さんご自身もガン治療の副作用で髪が抜ける体験をされており、2009年には全国のガン診療拠点病院にタオル帽子の無料配布を始めた。その岩手ホスピスの会の活動がNHK、朝日新聞等で報道され、大変な反響があった。その後全国各地に配布を続けられ、これまで5万3000個に上る。しかし、タオルが慢性的に不足し、すべて手縫いの作業でもあるため人手も不足してきた。2014年、全国発送だけでも経費が100万円以上と負担になってきて、そろそろ潮時かなという時期を迎えた。そこで、今まで応援し続けてきた内野（タオル大手メーカー）がガン患者用帽子の商品化を提案し、岩手ホスピスの会と内野の共同開発・全国販売の運びとなった。

ボランティアだけでは、本当に一部の人にしか行きわたらなかつたが、全国販売によって誰にでも届くようになり、いろんな形でガン患者さんを支援するボランティアネットが全国に広がっていくことを願っている。また、今後もボランティアによるタオル帽子の無料発送も継続していく予定であるという。

タオル帽子を必要とされている方がいかに多いかということであろう。

#### 5. ボランティア活動の試み

学生の体験状況および岩手ホスピスの会の活動状況により、ボランティア活動に踏み切った。まず、副教材として1作品を作ってみてから、ボランティアに参加できる学生を募集することにした。今回のボランティア参加学生は3人と少なかつたが、病院へ届ける活動は初めての試みなので、合計60個を製作して、ガン治療連携拠点病院である3病院へ届けることにした。

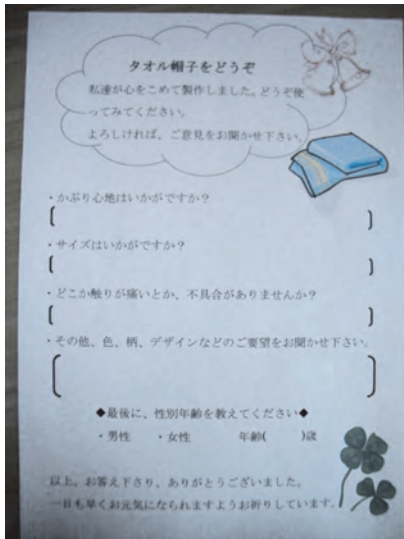
製作に要する時間は1個につき約1時間30分であるので、学生はかなりの労力を費やしよく頑張ってくれた。

アンケート用紙の質問項目としては、被り心地はどうか、サイズはどうか、どこか触りが痛いとか不具合があるとか、色・柄・デザイン等についての要望をおたずねした。

ご病気の時にアンケートをお願いするのは心苦しいところもあつたが、髪がない方にとって被り心地がどのようなものか、ダーツ部分の縫い代が痛いかなどが、とても気がか

りでアンケートをお願いすることにした。色・柄などの関係で、性別と年齢もおたずねした。

アンケート用紙は学生が上手に作成してくれて可愛いものとなり、製作したタオル帽子とアンケート用紙を一個ずつ袋詰めして届けることにした。



## 6. ボランティア活動の実践結果

準備も整い、ガン診療連携拠点病院である3病院へ20個ずつ届けに行った結果は、次の通りであった。

- ①病院では、岩手ホスピスの会から取り寄せた型紙をもとに、病院内でボランティアの人たちが、今までに約600個も製作されていて、十分足りているかのようにであった。
- ②病院では、患者さんは市販の製品を買われているということで、アンケートにも抵抗があったのか、必要とされていないかのようにであった。
- ③病院では、看護師さんがとても喜んでくださり、患者さんからの感想アンケートまで届けて頂き、とてもありがたい励みとなった。

## 7. 感想アンケート

7人の方から感想アンケートを頂いたので、その紹介をする。

- (男・64歳) 被り心地はタオル地なのでいいです。  
 サイズは少しゆったりです。  
 触りが痛いとかはありません。

好きな色・柄なので気に入っています。

(女・54歳) 被り心地はとてもいいです。黄色がかわいかった。

サイズはOK!

触りが痛いとかはないです。

色・柄・デザイン等の要望はない。

(女・51歳) 被り心地はふかふかして安心感があります。

サイズはややゆるめですが、締め付けられないので、被っていて気になりません。

触りが痛いとかはありません。

色・柄・デザイン等の要望としては、頂いたのはやや厚手のタオル製で吸汗性は高そうですが、真夏などは少し暑いかなと思います。カジュアルなものが多いので、薄手でドレスシーな服（ワンピースなど）にも合うのがあるとうれしいです。ありがとうございました。

(女・54歳) 被り心地は良いです。タオルなので気持ちがよいです。

サイズはOKです。

触りが痛いとかはないです。

気持ちがよかったので、3個も頂きました。これから毎日被らせていただきます。髪の毛がないのを忘れそうです。ありがとうございました。

(女・54歳) 被り心地は良いです。

サイズは良いです。

触りが痛いとかはないです。

今ので充分です。かわいいです。

(女・76歳) 被り心地は織地が荒く、この季節には涼しさも感じられ、被り心地も快適です。

サイズは大きいですが、これを生かして、ひだを好きなどころにとって、ファッションブルな被り方もできると思います。

触りが痛いとかはありません。

色・柄・デザインについては、髪色に近い無地が無難だと思います。タオル織地柄や小さい柄がいいと思います。折り返しは細くして折り返し分で大きさも調節するのも可能?ありがとうございました。大切にに使わせていただき

ます。

(女・61歳) 被り心地はとても良いです。

サイズは丁度でした。

触りが痛いとかはありません。

色・柄・デザインについては、少し芯を入れて、ひさしを付けたデザインもこれからは良いのではないのでしょうか。

以上、このようなアンケートを頂き、喜んでもらえたと思うと、とてもうれしく感じた。病院によって受け入れ態勢が異なっていたが、今後のボランティア活動の実践に期待が持てそうであった。これを励みに今後も頑張ろうと思っている。

## 8. おわりに

今回のボランティア活動は初めての試みであり、全くわからないことばかりでとても不安があった。岩手ホスピスの会の通信にも、「各病院で患者さんやご家族にタオル帽子配布の機会を設けてほしい。」などとあり、まだまだ受け入れ態勢に問題がありそうだったので、ともかく、学生とともに、思い切って当たってみることにした。結果、病院によって対応がずいぶん違っていたが、1病院のおかげで私達の努力が報われたような気がした。学生も感想アンケートが届くことを心待ちにしていたようで、届いた時にはとても喜んでくれた。

髪がなくなった方にあの帽子はどんな肌触りで、ミシンで縫ったダーツ縫いの縫い代や縫い目の刺激が痛いのではないかと、特に心配をしていたのだが、全員が痛くないと答えてくださり、ほっと安心した。

サイズはどのくらいがいいのか、頭囲も個々に異なっているし、髪がないとサイズが小さくなるのではないだろうか？などと。もし、サイズが大きすぎた時はひだを取ってファッションナブルなかぶりかたもできるとか、折り返して大きさ調節もできるなど、上手に工夫をして自由な発想で利用して下さることも分かった。

色・柄の好みはどうか？男の方のアンケートは今回1人だったが、色柄で気に入ってもらえたものがあってよかった。岩手ホスピスの会ではカラフルな柄物の寄付の願いをされていたので、元気が出そうな柄物を多く製作したが、もちろん無難な色や地味な色を好む方もいた。薄手のガーゼタイプのもも販売されているし、ドレシーな感じのものも欲しいとの要望もあり、タオルは楽しくなるほど色柄豊富に販売されているので、今後も可愛い色や地味な色やいろいろ多彩に揃えて製作を続けていきたいと考えている。

このボランティア活動は縫製技術の向上にもつながる活動であり、今後は多くの学生が参加してくれたらと願っている。



## 謝辞

この活動にあたり貴重なアンケートを下された患者さんのみなさん、帽子の配布・アンケートの回収にご協力下さった病院の看護師さん、そしてボランティア活動に参加して頑張ってくれた学生達に心から感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) 菊永典子：被服実習指導の現状と今後の課題、就実論叢第39号、P277-286 (2010)
- 2) 菊永典子：被服実習指導の現状と今後の課題Ⅱ、就実論叢第40号、P179-189 (2011)
- 3) 菊永典子：タオル帽子、就実論叢第41号、P249-256 (2012)
- 4) <http://hospice.sakura.ne.jp/towel.html>